
2010年3月期第2四半期決算説明会

新日本製鐵株式會社

2009年10月29日

＜本日の内容＞

1. 2010年3月期 第2四半期及び
第2四半期累計*決算実績

*以下累計実績は上期実績と表記

2. 2010年3月期 年度損益見通し

3. 剰余金の配当について

執行役員 太田 克彦

1. 2010年3月期第2四半期決算実績

世界の月別粗鋼生産推移

(万トン)	08年上期	7-9月				%								
			10月	11月	12月	09年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
(月平均)	1,032	1,015	1,010	882	748	638	548	574	573	648	688	766	831	827
日本 (累計)	6,190	3,045												
	4.2%	1.8%	▼2.7%	▼12.9%	▼27.9%	▼37.8%	▼44.2%	▼46.7%	▼43.5%	▼38.6%	▼33.6%	▼24.9%	▼18.3%	▼18.0%
米国	849	834	676	470	392	408	395	395	380	431	436	504	555	538
	5,095	2,503												
	5.1%	1.9%	▼20.3%	▼42.7%	▼53.6%	▼52.8%	▼51.9%	▼54.1%	▼54.6%	▼50.6%	▼47.9%	▼40.8%	▼36.0%	▼31.4%
EU27	1,823	1,685	1,605	1,276	907	982	1,007	1,032	943	1,079	1,123	1,122	1,051	1,317
	10,937	5,054												
	0.9%	1.4%	▼10.1%	▼26.3%	▼44.3%	▼44.3%	▼41.5%	▼45.2%	▼48.7%	▼43.2%	▼38.7%	▼35.9%	▼33.5%	▼23.6%
ロシア	639	620	451	373	331	393	433	463	437	468	487	502	502	486
	3,837	1,859												
	4.8%	5.6%	▼27.1%	▼36.5%	▼46.0%	▼39.3%	▼28.2%	▼30.9%	▼28.3%	▼31.2%	▼22.1%	▼18.4%	▼20.8%	▼20.3%
ブラジル	291	313	290	232	165	162	165	173	173	189	194	250	268	260
	1,745	940												
	6.9%	8.3%	▼0.1%	▼19.1%	▼45.3%	▼45.6%	▼39.0%	▼41.5%	▼40.4%	▼36.3%	▼33.9%	▼22.8%	▼15.0%	▼13.7%
インド	453	464	481	465	450	457	410	474	458	473	458	473	477	462
	2,720	1,391												
	4.2%	6.5%	3.8%	1.9%	▼4.7%	▼4.8%	▼11.5%	▼2.6%	8.1%	9.3%	5.7%	4.3%	0.5%	▼0.2%
中国	4,366	4,236	3,590	3,519	3,779	4,119	4,042	4,510	4,341	4,646	4,943	5,068	5,233	5,071
	26,195	12,707												
	9.3%	▼0.2%	▼17.0%	▼12.4%	▼8.5%	1.5%	4.0%	0.5%	▼2.8%	1.0%	5.3%	12.9%	22.9%	28.0%
世界計	11,605	11,241	9,879	8,780	8,441	8,642	8,470	9,214	8,899	9,591	9,967	10,390	10,650	10,703
	69,628	33,724												
	5.9%	1.8%	▼13.9%	▼20.1%	▼24.3%	▼23.4%	▼21.4%	▼22.9%	▼23.6%	▼20.6%	▼16.2%	▼11.0%	▼5.5%	▼0.8%

(出所: world steel association)

大分第1高炉・君津第2高炉の稼働について

■大分第1高炉

今後の需要見通しは穏やかな回復にとどまるものの、生産効率、コスト等を総合的に勘案し、8月2日、改修工事以降、稼働を延期していた大分製鉄所第1高炉を稼働(火入れ)。

■君津第2高炉

君津第3高炉におけるコークス流出トラブル(8月28日発生)の完全復旧に時間を要する見込みとなったことから、お客様への影響を最小限にとどめるため、10月4日、バンキング中であった君津第2高炉を再稼働(火入れ)。

■今後も国内外の実需に見合った慎重な生産対応を図っていく。

(参考) 当社の高炉の概要

	稼働状況	炉容積 (m ³)
大分	<u>第1高炉(8月2日稼働)</u> 第2高炉(稼働中)	<u>5,775</u> 5,775
君津	<u>第2高炉(10月4日稼働)</u> 第3高炉(稼働中) 第4高炉(稼働中)	<u>3,273</u> 4,822 5,555
八幡	第4高炉(稼働中)	4,250
室蘭 (北海製鐵)	第2高炉(稼働中)	2,902
名古屋	第1高炉(稼働中) 第3高炉(稼働中)	5,443 4,300

<大分製鉄所 第1・第2高炉>

世界最大(炉容積5,775m³)のツイン高炉による
効率的な生産体制の確立



主要需要分野の活動水準推移

			08年度				09年度		
			上期	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q 08年4Q比	上期
建 築	住宅着工戸数	万戸	58	29	26	20	20	20 +0%	40
	土木	非住宅着工戸数	万㎡	3,251	1,654	1,465	1,240	1,019	921 ▼26%
自 動 車	完成車生産台数	万台	580	292	260	161	171	214 +33%	385
	完成車輸出台数	万台	344	173	149	67	76	96 +43%	172
	KDセット輸出	万セット	414	198	193	98	152	188 +92%	340
産業機械	大中型ショベル	千台	44	22	16	6	3	5 ▼17%	8
	金属工作機械	千ト	252	129	103	68	35	52 ▼24%	87
	フォークリフト	千台	93	46	35	18	14	18 0%	32
造 船	新造船起工 (当社推定)	万GT	930	465	480	440	435	430 ▼2%	865

主要需要分野の鋼材消費推移

	08年度				09年度		
	上期	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	上期
国内鋼材消費 万トン	3,826	1,912	1,704	1,465	1,413	1,500	2,913
製造業比率	63.9%	62.5%	58.4%	57.1%	61.6%	63.3%	62.5%
普通鋼鋼材消費 万トン	3,130	1,574	1,472	1,228	1,142	1,204	2,346
建設 万トン	1,295	670	668	594	506	510	1,016
製造業 万トン	1,835	904	804	634	636	694	1,330
(うち造船) 万トン	315	159	157	151	146	144	290
(うち自動車) 万トン	703	346	287	198	215	261	476
特殊鋼鋼材消費 万トン	696	338	232	237	271	296	567

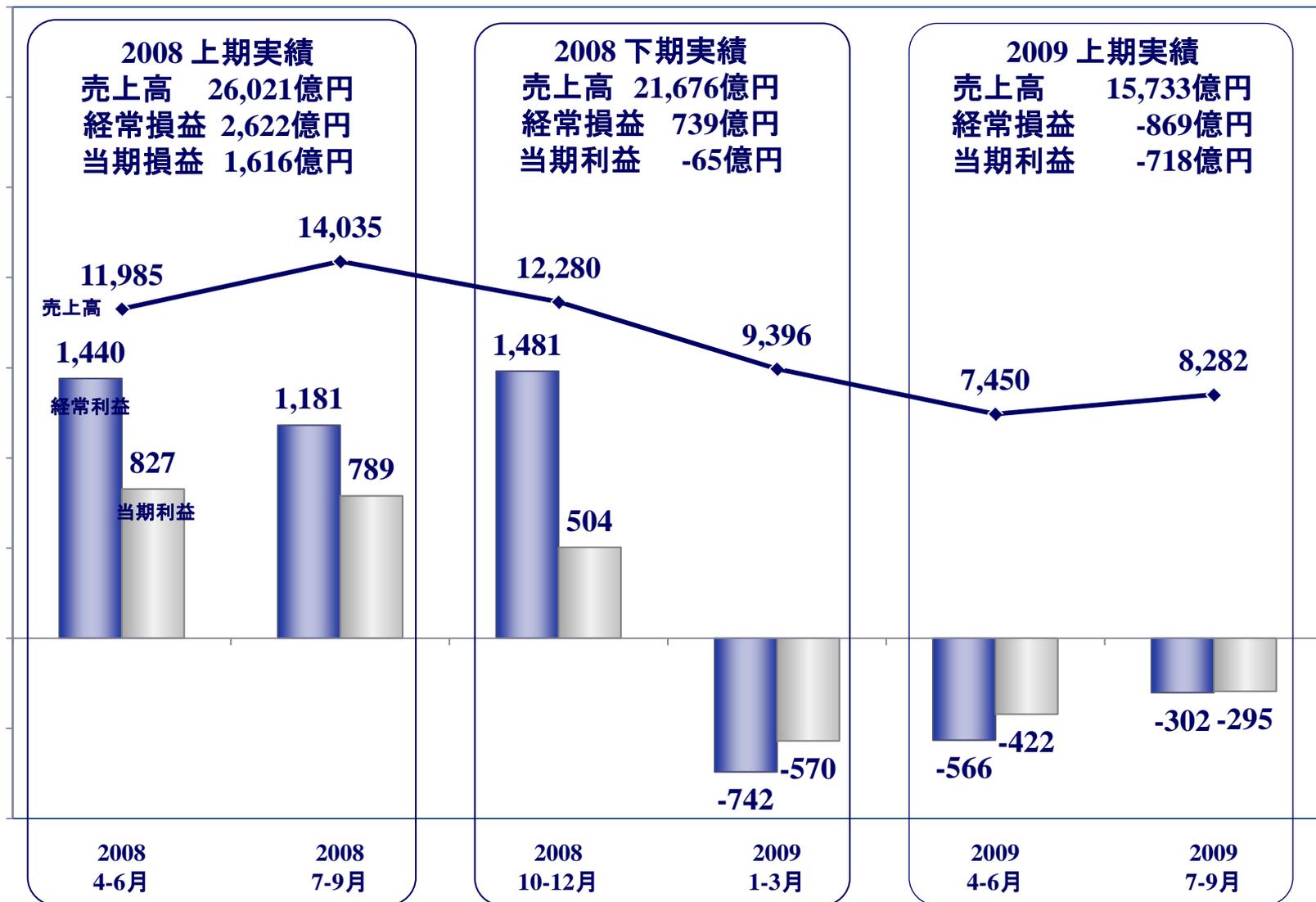
(各種統計資料・当社推定)

製鉄事業諸元前提

	08年度					09年度		
	上期	2Q	下期	3Q	4Q	1Q	2Q	上期
全国粗鋼生産量 万トン	6,151	3,045	4,399	2,640	1,760	1,909	2,424	4,333
当社出銑量 ^{*1} 万トン	1,607	804	1,241	747	495	484	635	1,119
連結粗鋼生産量 ＜参考＞当社単独 万トン	1,823 <1,657>	906 <826>	1,301 <1,204>	797 <737>	504 <467>	537 <482>	738 <673>	1,275 <1,155>
当社鋼材出荷量 万トン	1,637	829	1,183	712	471	473	674	1,147
当社販売価格 千円/トン	100.2	108.2	110.8	112.4	108.5	88.4	72.7	79.2
鋼材輸出比率 (金額ベース) %	33.5	35.0	31.2	31.8	30.1	33.1	38.9	36.2
為替レート ¥/\$	106	108	97	99	93	97	95	96

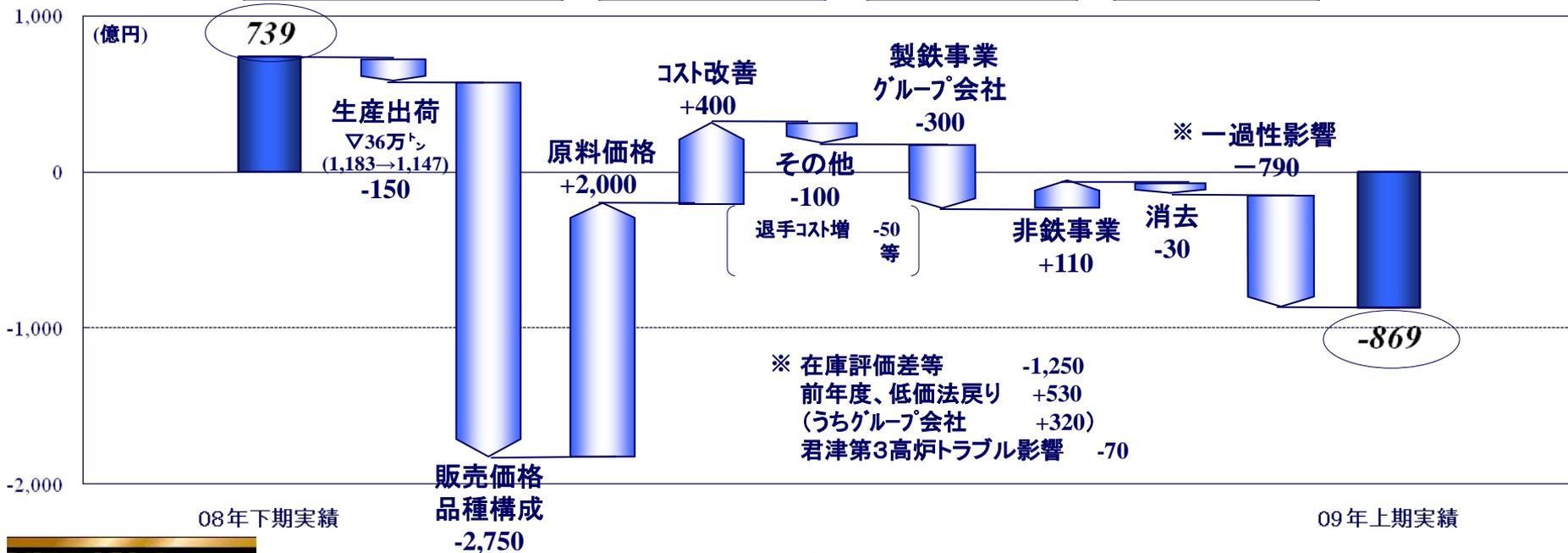
*1 北海製鉄の出銑量含む

2010年3月期上期 連結決算実績概況



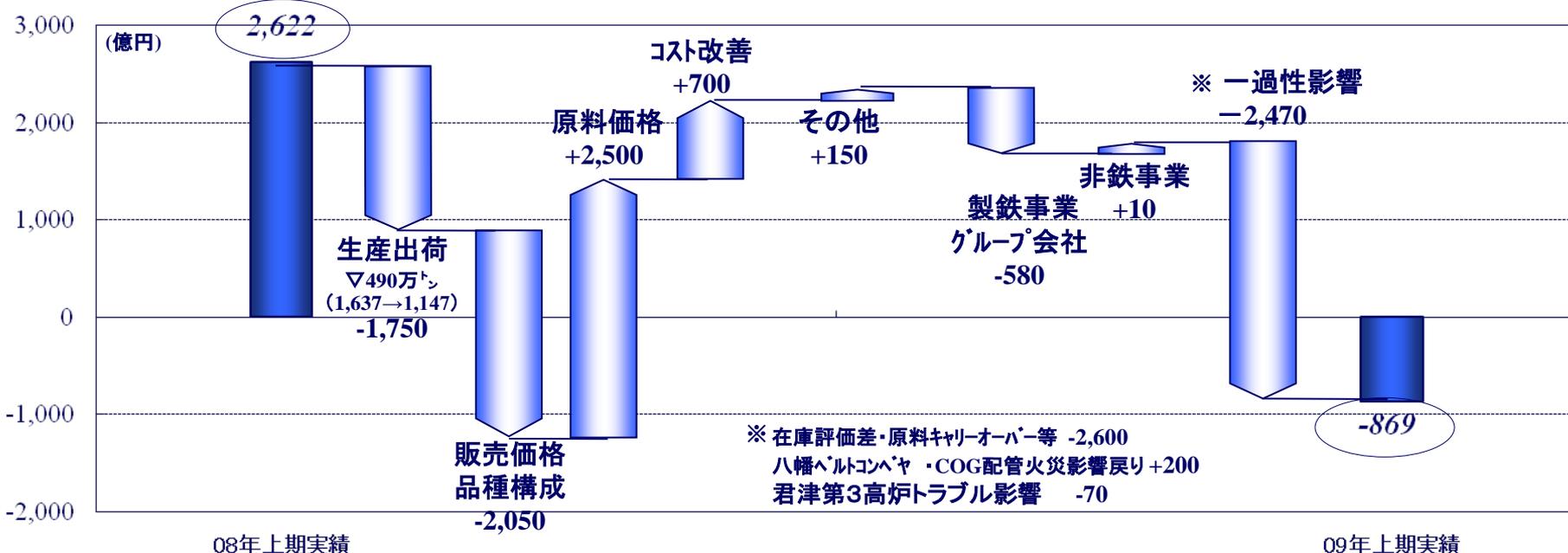
2010年3月期上期 連結損益実績分析(対前期)

(億円)	09年度 上期実績	08年度 下期実績	増減 08下→09上
売上高	15,733	21,676	-5,943
営業損益	-714	945	-1,659
経常損益	-869	739	-1,608
特別損益	-64	-653	+589
当期損益 < 一株当たり 当期利益 >	-718 <-11.4>	-65 <-1.0>	-653 <-10.4>



2010年3月期上期 連結損益実績分析(対前年同期・前回見通し)

(億円)	09年度 上期実績	08年度 上期実績	増減 08上→09上	前回見通し	対前回見通し	対前回見通し +231億円 製鉄事業 +150 ・数量価格等 +100 ・君津第3高炉トラブル 影響等 -100 ・グループ会社 +150 非鉄事業等 +80
売上高	15,733	26,021	-10,288	15,500	+233	
営業損益	-714	2,484	-3,198	-1,000	+286	
経常損益	-869	2,622	-3,491	-1,100	+231	
特別損益	-64	103	-167			
当期損益 <一株当たり 当期利益>	-718 <-11.4>	1,616 <25.6>	-2,334 <-37.0>	-800 <-12.7>	+82 <+1.3>	



2010年3月期第2四半期 連結損益実績分析(対1Q)

(億円)	09年度上期		1Q→2Q
	1Q実績	2Q実績	
売上高	7,450	8,282	+832
営業損益	-534	-180	+354
経常損益	-566	-302	+263
特別損益	-64	0	+64
当期損益	-422	-295	+127
< 一株当たり 当期利益 >	<-6.7>	<-4.7>	<+2.0>

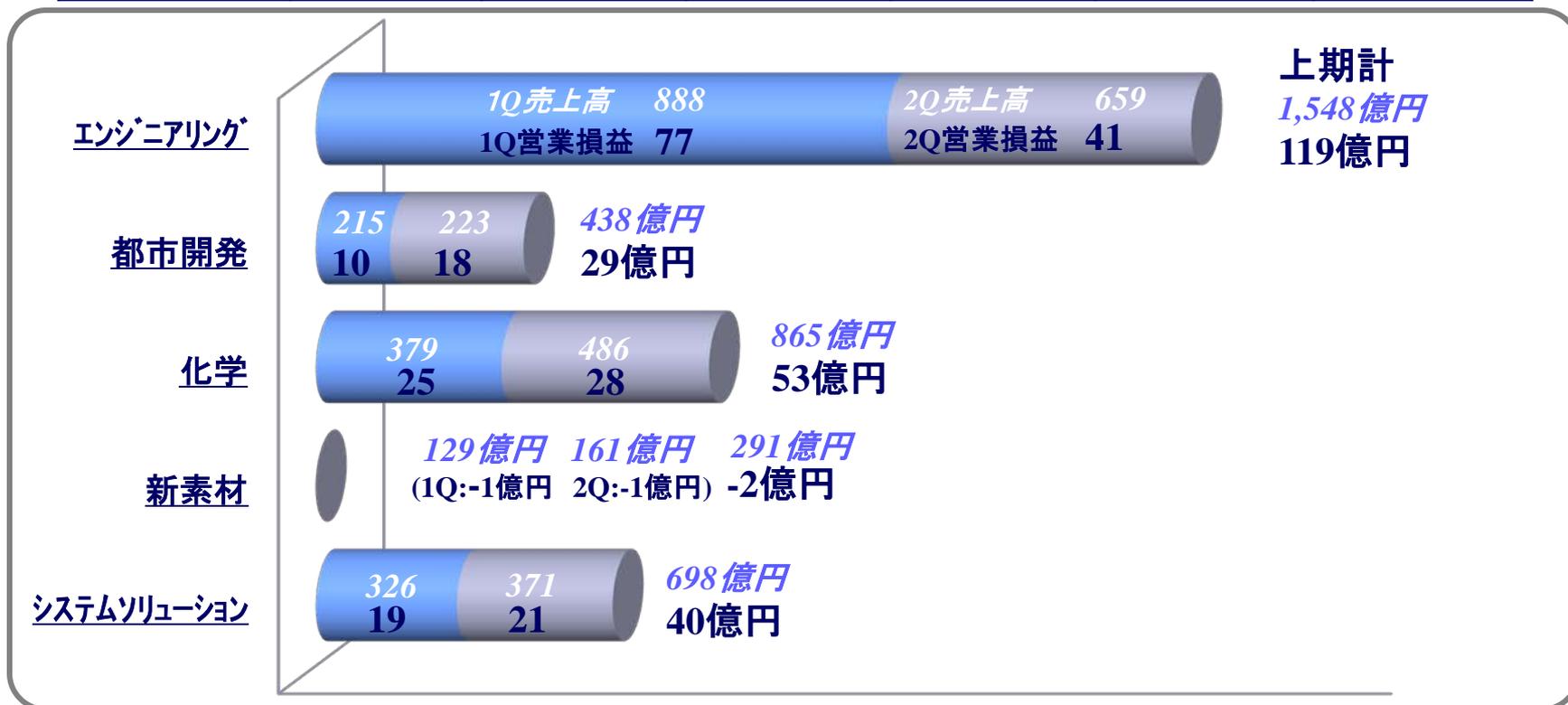
【1Q→2Q】 経常損益 +263億円

- ・生産出荷 (473→674万ト) +500
- ・販売価格・品種構成 -650
- ・コスト改善 +100
- ・グループ会社損益 +150
- ・その他 (営業外費用等計上期間差ほか) -270
- ・一過性影響 +430

在庫評価差・キャリーオーバー +500
 君津第3高炉トラブル影響 -70

2010年3月期上期 連結セグメント別損益実績

(億円)	売上高			営業損益		
	上期実績	1Q	2Q	上期実績	1Q	2Q
連結計	15,733	7,450	8,282	-714	-534	-180
製鉄事業	12,595	5,788	6,806	-932	-649	-282
非鉄事業	3,842	1,939	1,902	239	131	108



製鉄以外5セグメントの概況

(億円)		09年度 上期実績	対前回 見通し	08年度 上期実績	<概況>
エンジニアリング	売上高	1,548	-52	1,687	昨年来の受注残により、損益は一定のレベルを確保し、対前年同期比で、増益。
	営業利益	119	+19	59	
都市開発	売上高	438	+38	255	厳しい事業環境下なるも、首都圏中心に総じて堅調。上期は、当期に竣工した都心大型マンションの売上高が貢献。
	営業利益	29	-1	22	
化学	売上高	865	+65	1,369	売上・損益とも前年同期比で減収減益なるも、見通し比では、売上高は、SM(スチレンモノマー)市況が上期を通じて1,000\$台で堅調に推移したことから、増収。営業利益も、2QのSMマージンが1Q並に推移したこと、ニードルコークスの輸出増、2層CCL含む機能材料の出荷促進等により、増益。
	営業利益	53	+23	80	
新素材	売上高	291	+41	358	半導体の世界市場は、回復傾向にあるなか、見通し比で、売上高・営業利益とも、改善。
	営業利益	-2	+8	2	
システムソリューション	売上高	698	+2	764	顧客企業のシステム投資抑制傾向の継続、ベンダー間の競争が激化。上期は、見通し(4月時点)に対し、売上高はほぼ見通し並み。営業利益は売上総利益率の改善や販管費の削減により増益。
	営業利益	40	+10	43	
非鉄計	売上高	3,842	+92	4,435	
	営業利益	239	+59	209	

主要上場グループ会社等損益実績 <2009年10月29日時点>

会社名	決算発表日	(億円)	08年度 実績	09年度 1Q実績	09年度 上期実績	09年度 見通し
■製鉄事業						
大阪製鐵 連	2009/10/29	売上高	1,265	154	316	620
[上場] 5449 (61%)		経常利益	208	34	50	65
		当期利益	120	19	29	38
鈴木金属工業 連	2009/11/6	売上高	366	55	N.A.	N.A.
[上場] 5657 (67%)		経常利益	1	-5	N.A.	N.A.
		当期利益	-2	-2	N.A.	N.A.
新日鐵住金ステンレス 連	2009/10/29	売上高	3,036	352	928	N.A.
[非上場] (80%)		経常利益	-343	-26	27	N.A.
		当期利益	-214	-18	13	N.A.
山陽特殊製鋼 持	2009/10/29	売上高	1,627	164	N.A.	N.A.
[上場] 5481 (15%)		経常利益	48	-65	N.A.	N.A.
		当期利益	-10	-39	N.A.	N.A.
合同製鐵 持	2009/10/30	売上高	1,926	236	N.A.	N.A.
[上場] 5410 (15%)		経常利益	120	12	N.A.	N.A.
		当期利益	54	1	N.A.	N.A.
日鐵商事 持	2009/10/30	売上高	13,208	1,980	N.A.	N.A.
[上場] 9810 (34%)		経常利益	130	7	N.A.	N.A.
		当期利益	74	2	N.A.	N.A.
太平工業 持	2009/11/6	売上高	1,629	382	N.A.	N.A.
[上場] 1819 (37%)		経常利益	136	34	N.A.	N.A.
		当期利益	77	17	N.A.	N.A.
■非鉄事業						
新日鐵化学 連	2009/10/29	売上高	2,118	N.A.	865	1,700
[非上場] (100%)		経常利益	-6	N.A.	46	60
		当期利益	-176	N.A.	30	N.A.
新日鐵ソリューションズ [*] 連	2009/10/29	売上高	1,615	326	698	1,500
[上場] 2327 (67%)		経常利益	119	20	42	100
		当期利益	63	10	23	53

2009年度第2四半期

当社連結対象会社数:328社

連結子会社:255社
持分法適用関連会社:73社

<主な変動>

2009年6月15日

鈴木金属の当社連結子会社化
(持分比率35.9%→66.59%)

※N.A.は非開示・公表前

※各社連結ベースの数値

※(%)は持分比率

連=連結子会社

持=持分法適用関連会社

連結貸借対照表(09/03末→09/09末)

資産の部

(億円)

09/03末

09/09末

48,706

48,799



流動資産 -2,230

- ・売掛債権 -1,000
- ・棚卸資産 -1,130
- 等

固定資産 +2,322

- ・有形固定資産 +617
- ・投資その他の資産 (株価回復影響等) +1,498
- 11,502→13,000 等

負債及び純資産の部

(億円)

09/03末

09/09末

48,706

48,799



負債 -122

- ・買掛債務 -677
- ・繰延税金負債 +477
- ・有利子負債 +135

	09/03E	09/09E
有利子負債	14,542	→ 14,677
D/E	0.87	→ 0.86

等

純資産 +214

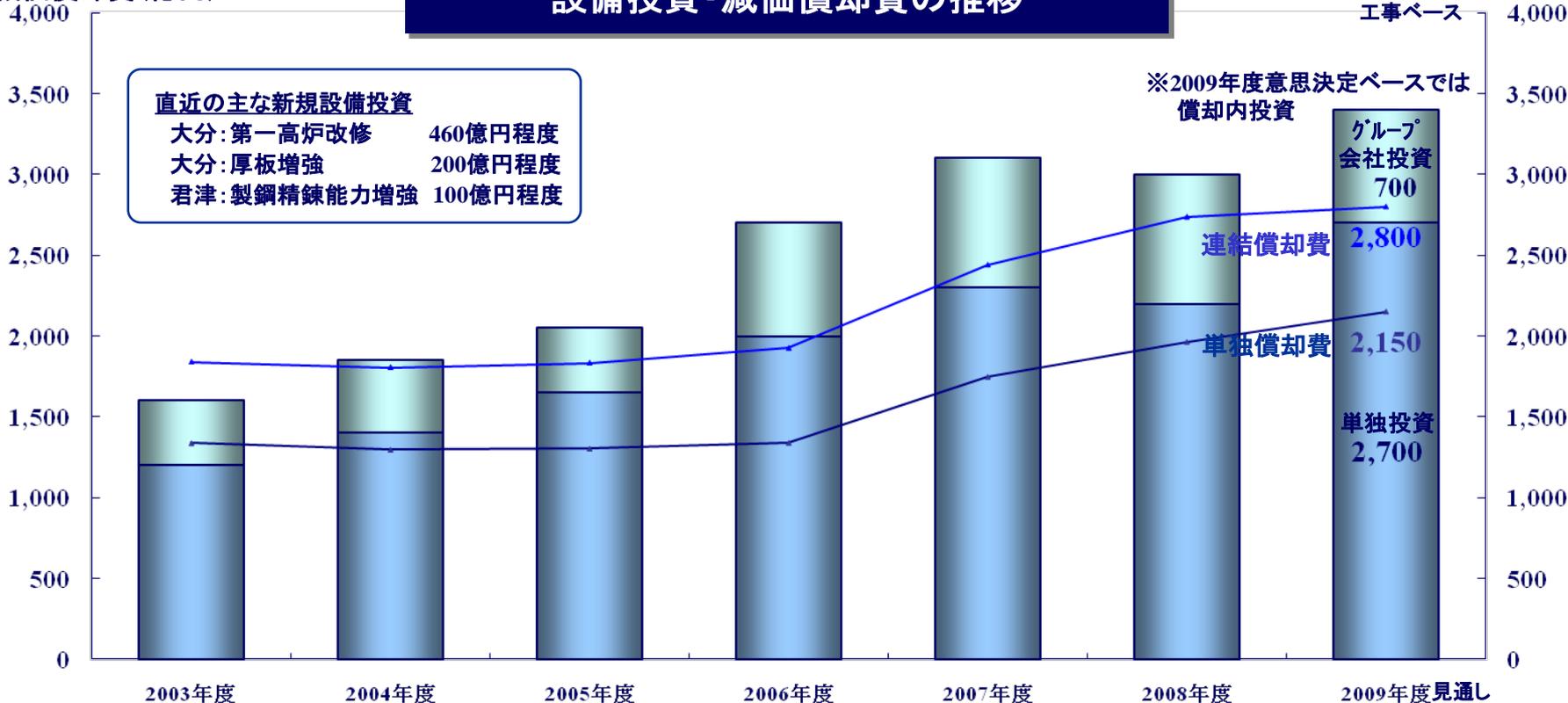
- ・利益剰余金 -783
- ・その他有価証券評価差額金 +770
- 税効果後の純資産直入額 226→996 (+770)
- ・為替換算調整勘定 +422
- 等

設備投資・減価償却費

単位: 億円

設備投資額 (減価償却費)	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度 見通し	前回公表 (7/29)
連 結	1,600 (1,840)	1,850 (1,805)	2,050 (1,833)	2,700 (1,925)	3,100 (2,440)	3,000 (2,737)	3,400 (2,800)	3,800 (2,900)
単 独	1,200 (1,340)	1,400 (1,299)	1,650 (1,306)	2,000 (1,342)	2,300 (1,749)	2,200 (1,963)	2,700 (2,150)	3,000 (2,200)

減価償却費(億円)



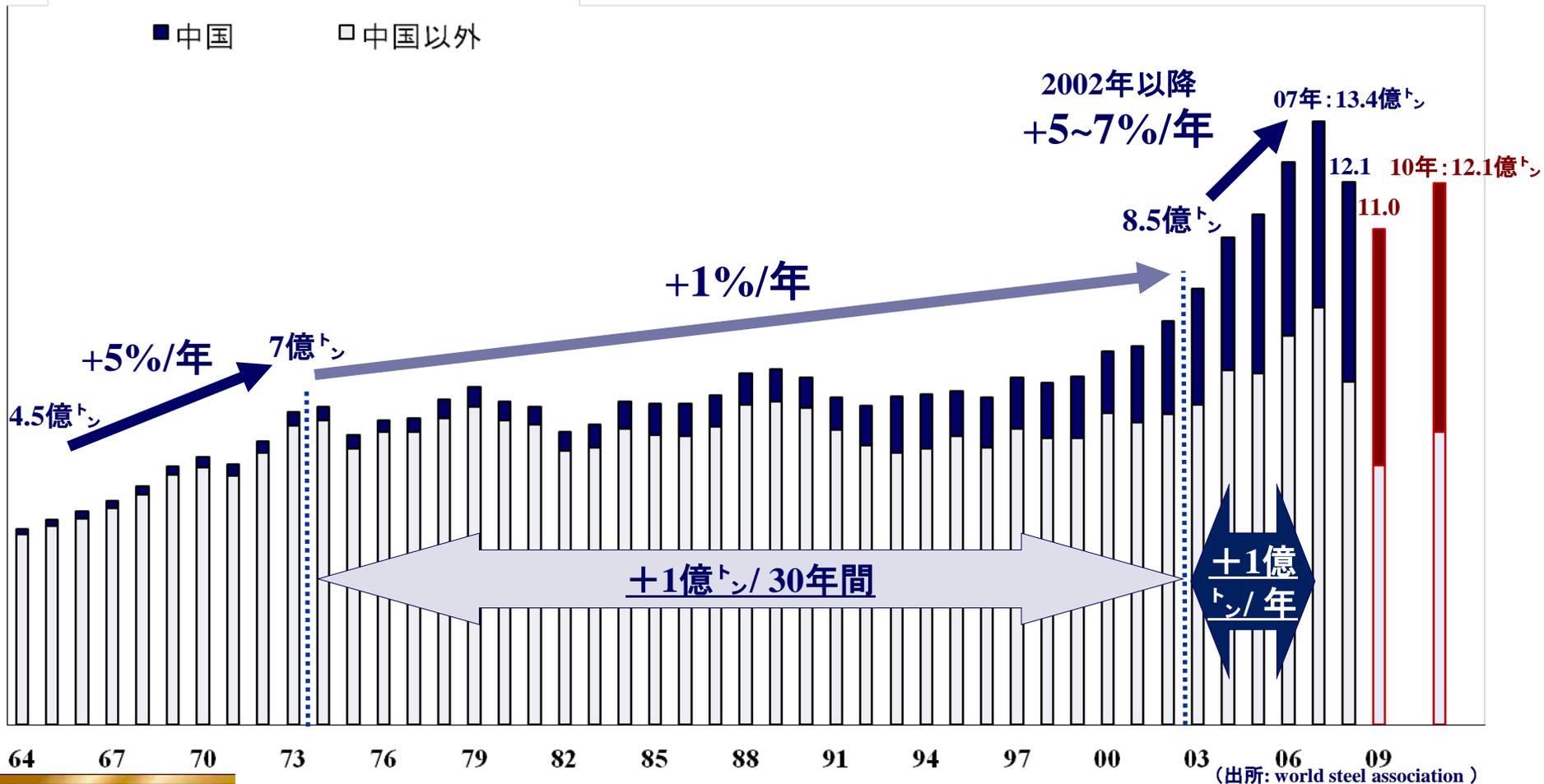
2. 2010年3月期損益見通し

世界の鉄鋼需要推移(粗鋼見掛消費)

■ 2000年初頭から2008年央まで世界の鉄鋼需要は急拡大

■ 2007年→2008年: 世界合計

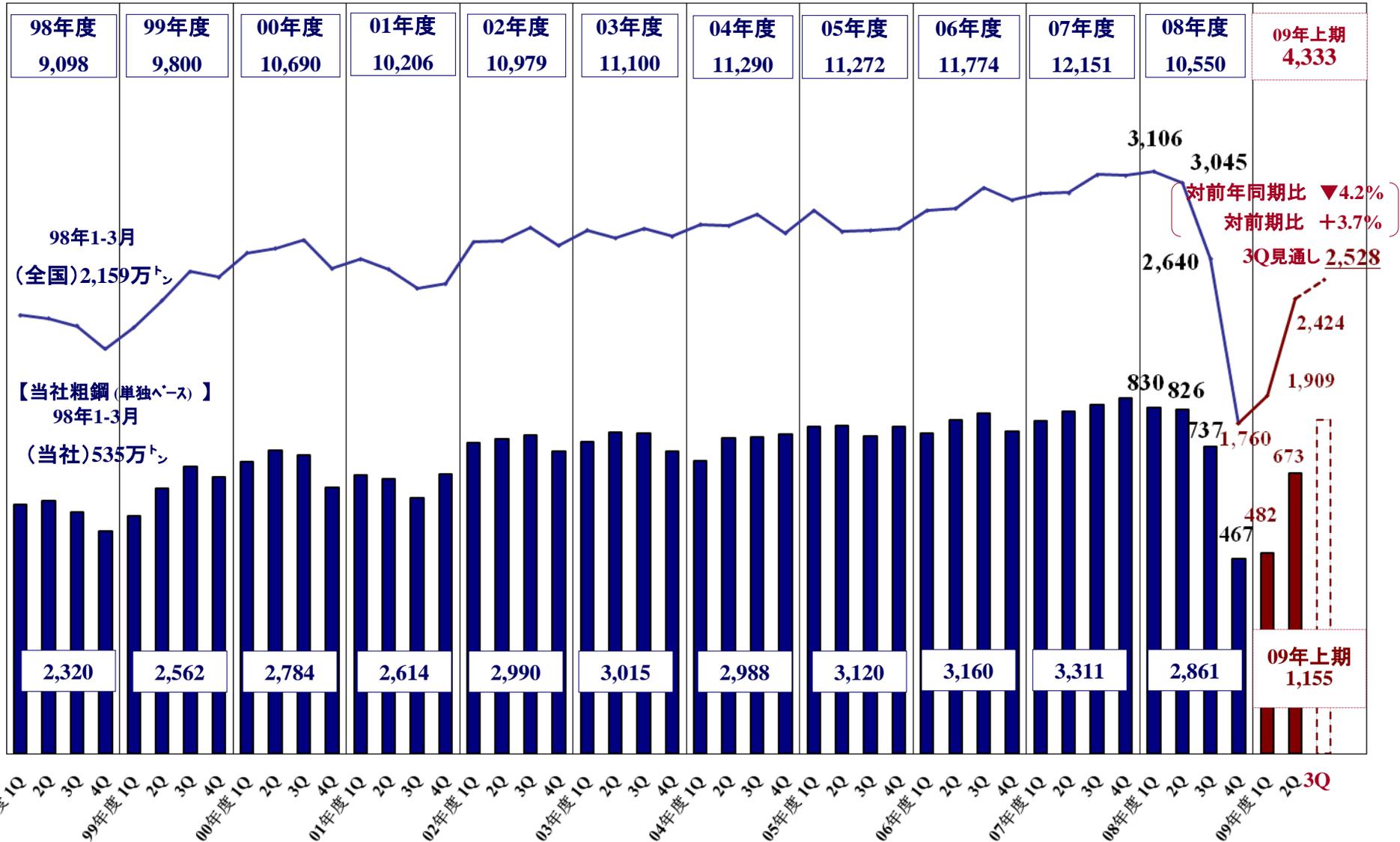
年	世界合計 (億トン)
<2007年>	13.3億トン
<08年実績>	12.1億トン (4月時点: 13.2億トン)
<09年予測>	11.0億トン
<10年予測>	12.1億トン (WSA 10月発表)



全国・当社粗鋼生産量 四半期別推移

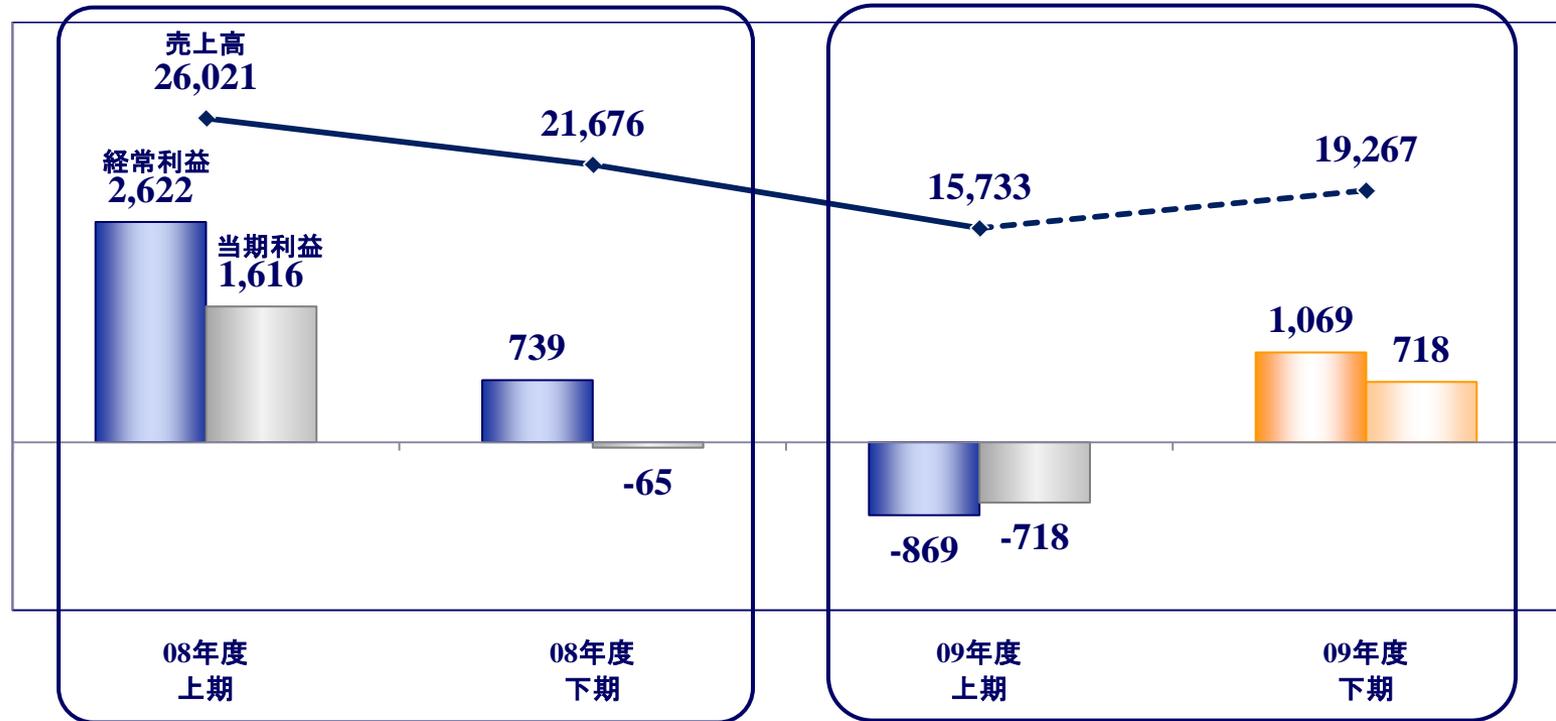
【全国粗鋼】

(全国粗鋼は 9/30 経済産業省発表値)



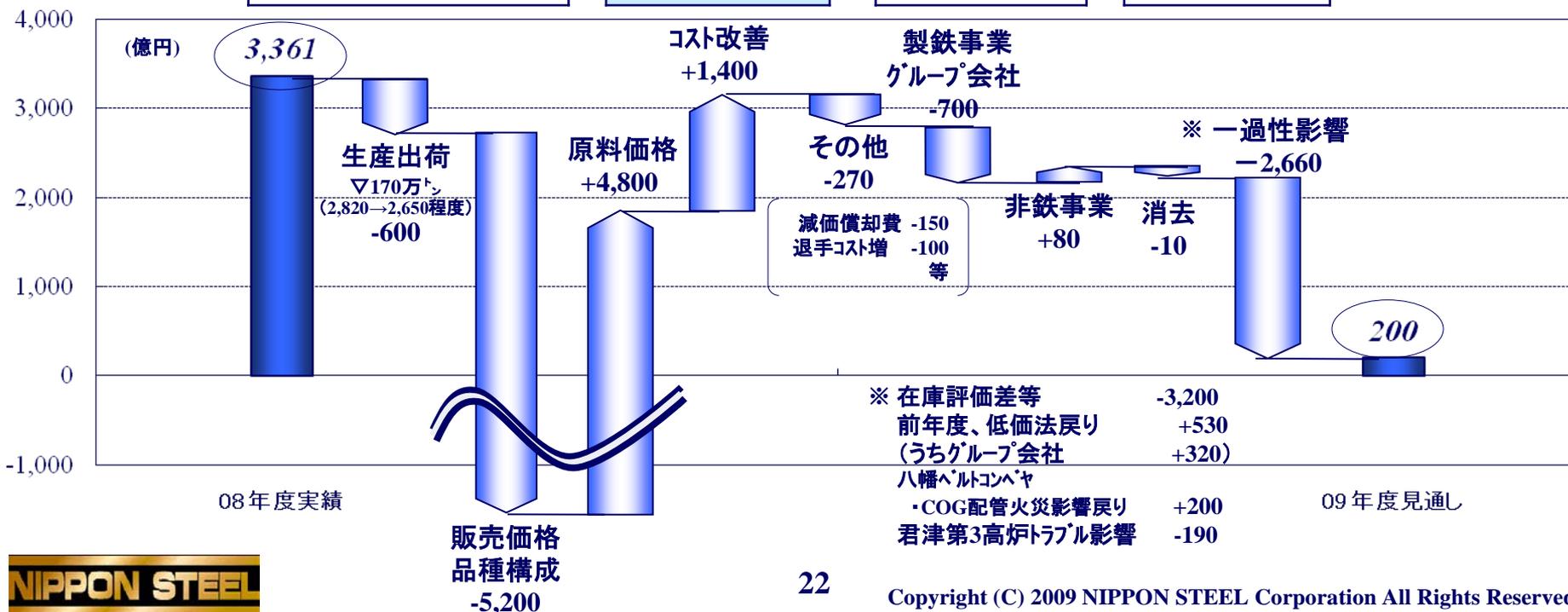
2010年3月期 年度決算見通し

(億円)	09年度見通し			08年度実績		
	上期実績	下期見通し	上期実績	下期実績		
売上高	35,000	19,267	26,021	21,676		
営業損益	400	1,114	3,429	945		
経常損益	200	1,069	3,361	739		
単独	-800	499	2,036	415		
当期損益	0	718	1,550	-65		
<一株当たり当期利益>	<0.0>	<11.4>	<24.6>	<-1.0>		



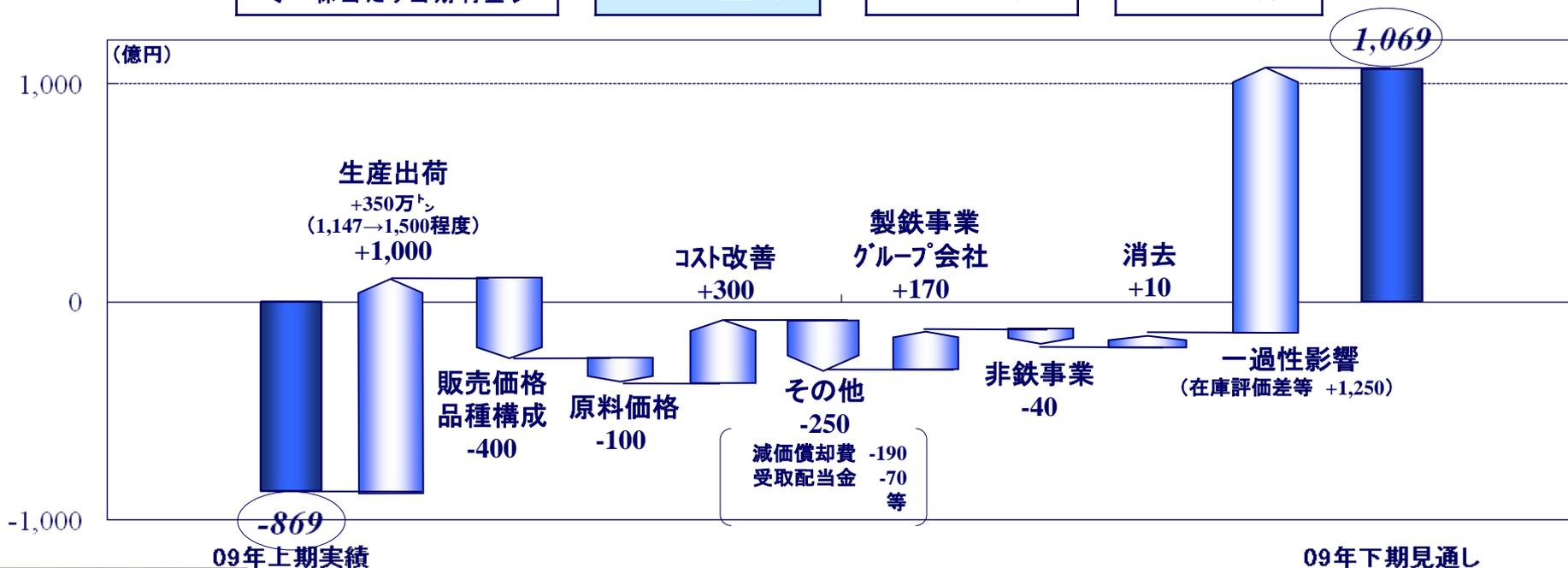
2010年3月期 連結損益見通し分析(対前年度)

(億円)	09年度見通し	08年度実績	増減
売上高	35,000	47,698	-12,698
営業損益	400	3,429	-3,029
経常損益	200	3,361	-3,161
単独経常利益	-800	2,036	-2,836
当期損益 <一株当たり当期利益>	0 <0.0>	1,550 <24.6>	-1,550 <-24.6>



2010年3月期下期 連結損益見通し分析(対上期実績)

(億円)	下期見通し	上期実績	増減
売上高	19,267	15,733	+3,534
営業損益	1,114	-714	+1,828
経常損益	1,069	-869	+1,938
単独経常利益	499	-1,299	+1,798
当期損益 <一株当たり当期利益>	718 <11.4>	-718 <-11.4>	+1,436 <+22.8>



09年上期実績

09年下期見通し

2010年3月期 連結セグメント別損益見通し

(億円)	売上高			営業損益		
	年度見通し	上期	下期	年度見通し	上期	下期
連結計	35,000	15,733	19,267	400	-714	1,114
製鉄事業	28,500	12,595	15,905	0	-932	932
非鉄事業	8,000	3,842	4,158	450	239	211



製鉄以外5セグメントの概況

		09年度 見通し	対前年度	<概況>
(億円)				
エンジニアリング	売上高	3,400	-466	損益については、既受注案件の着実な実行により、計画を達成する見込み。受注については、目標水準確保に向け、営業活動を推進。
	営業利益	240	-6	
都市開発	売上高	800	+99	09年度は大規模再開発事業の竣工により、増収。但し、厳しい事業環境下、損益は横這いの見通し。
	営業利益	40	+1	
化学	売上高	1,700	-421	売上高は、化学品市況の低下、コーンケミカル製品の出荷減により減収を見込む。損益は、コーンケミカル事業は生産・販売量の減少により減益となるが、化学品事業における原料・製品マージンの回復、機能材料事業における生産・販売量の増加等により、全体として増益を見込む。
	営業利益	70	+62	
新素材	売上高	600	+1	半導体部材需要が復調するなか、売上高は、概ね前年並みとなる見通し。損益については、収益対策の推進により赤字を脱却し、増益となる見通し。
	営業利益	0	+23	
システムソリューション	売上高	1,500	-115	顧客企業のシステム投資動向に不透明感があり、ベンダー間の競争も激化していることから、前回見通し(4月発表時点)を据え置き。
	営業利益	100	-14	
非鉄計	売上高	8,000	-902	
	営業利益	450	+66	

3. 剰余金の配当について

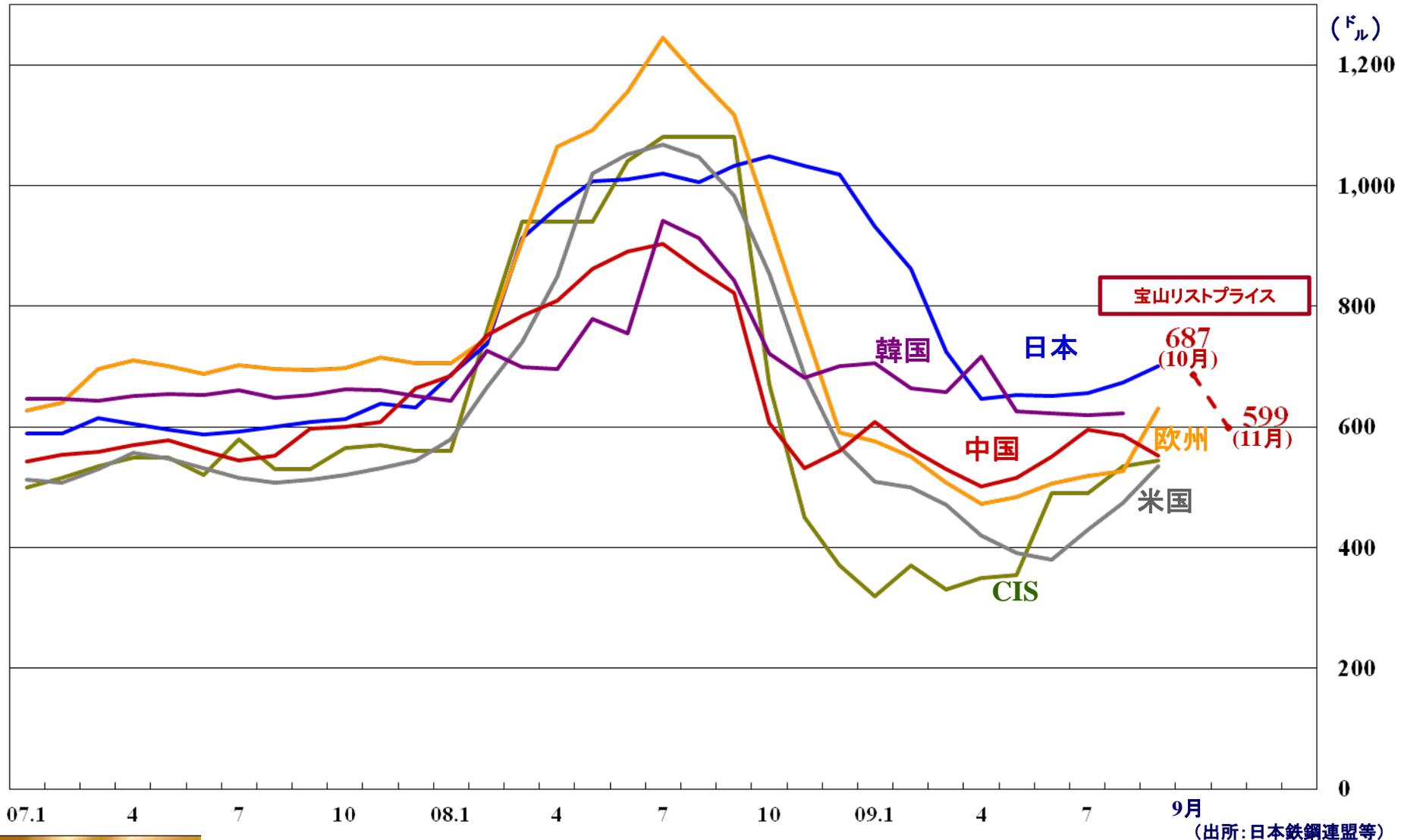
剰余金の配当について

当第2四半期末(中間期末)の剰余金の配当につきましては、既公表の配当方針に従い、上半期の連結当期利益が赤字となったこと及び年度業績見通しの状況を踏まえ、誠に遺憾ではありますが、見送ることとさせていただきます。

期末の配当(方針)につきましては、第3四半期決算発表時に判断し、公表させていただくことと致します。

ご参考

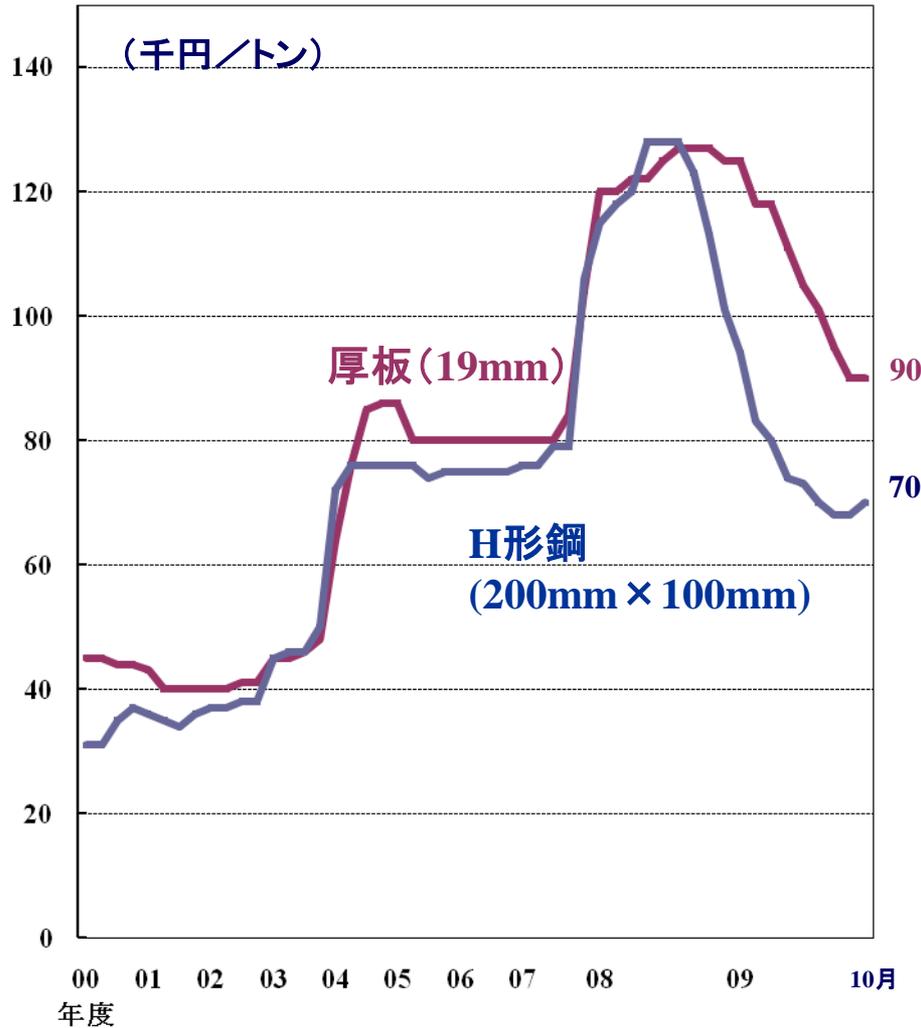
世界各国ホットコイル市況推移



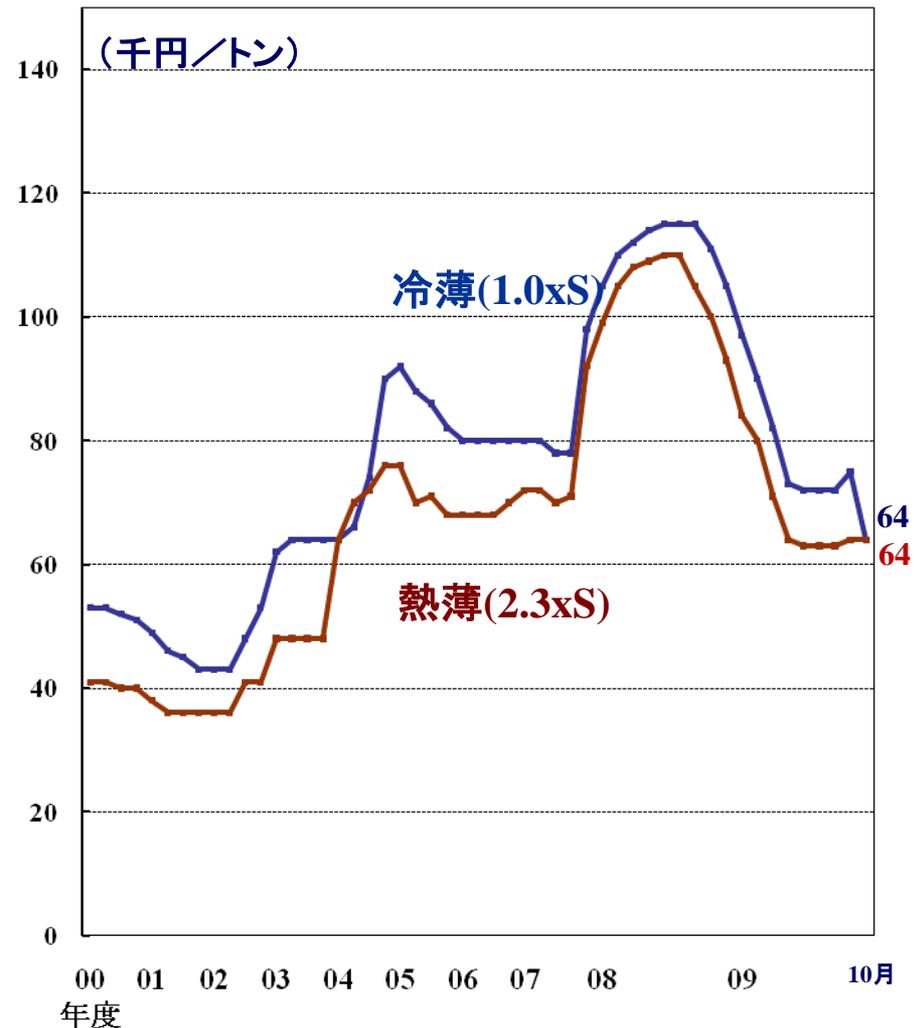
(出所: 日本鉄鋼連盟等)

国内鋼材市況 <店頭価格>

H形鋼・厚板



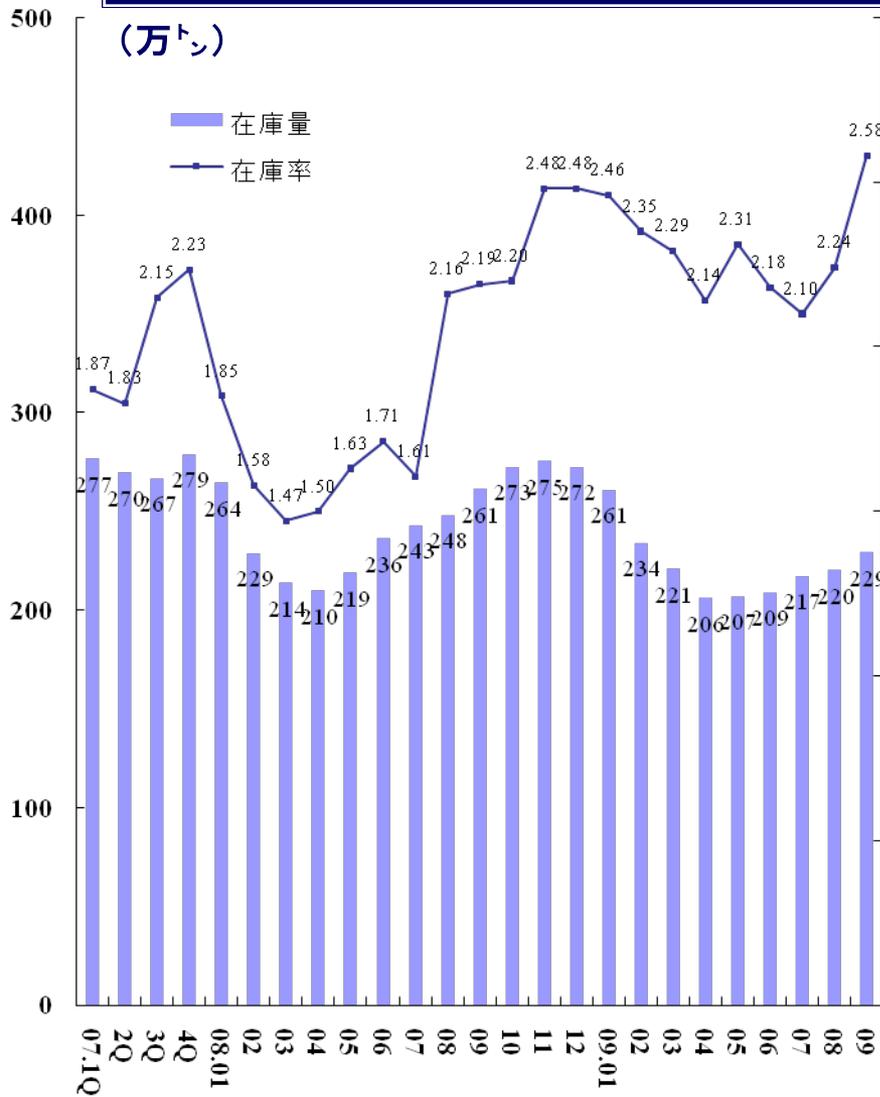
熱延薄板・冷延薄板



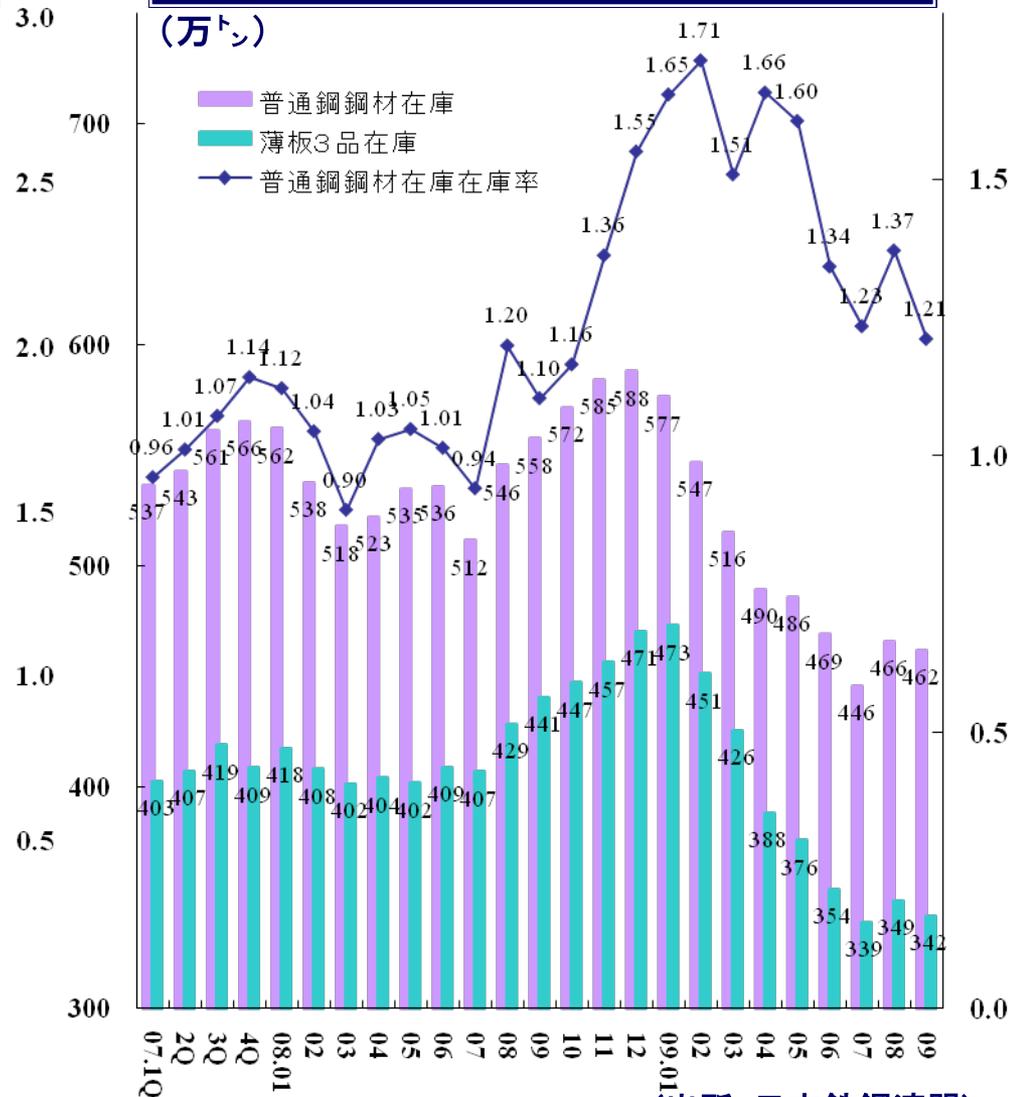
(出所:鉄鋼新聞・月末・東京安値、問屋間仲間相場価格)

国内鋼材在庫推移

ときわ会(H型鋼)在庫



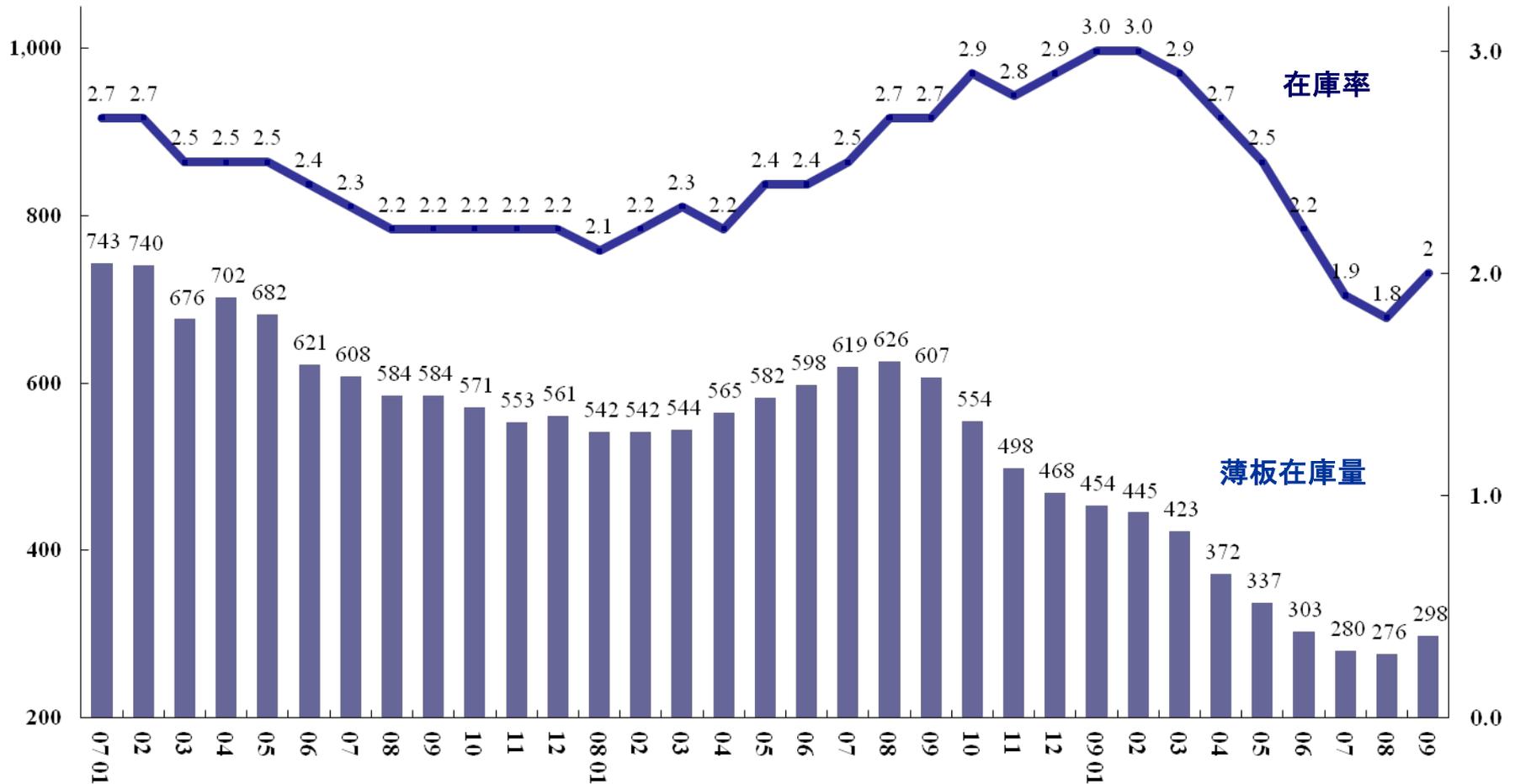
普通鋼鋼材国内在庫



(出所: 日本鉄鋼連盟)

米国鋼材在庫量推移

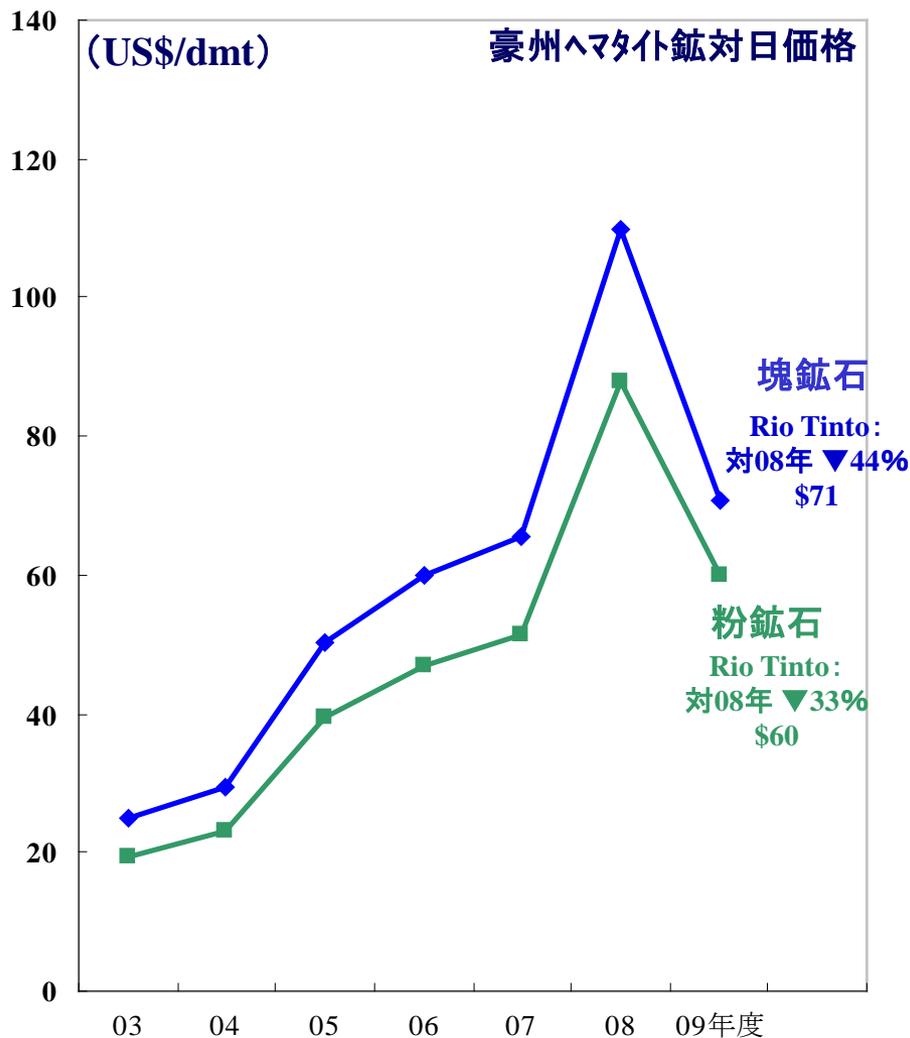
(万トン)



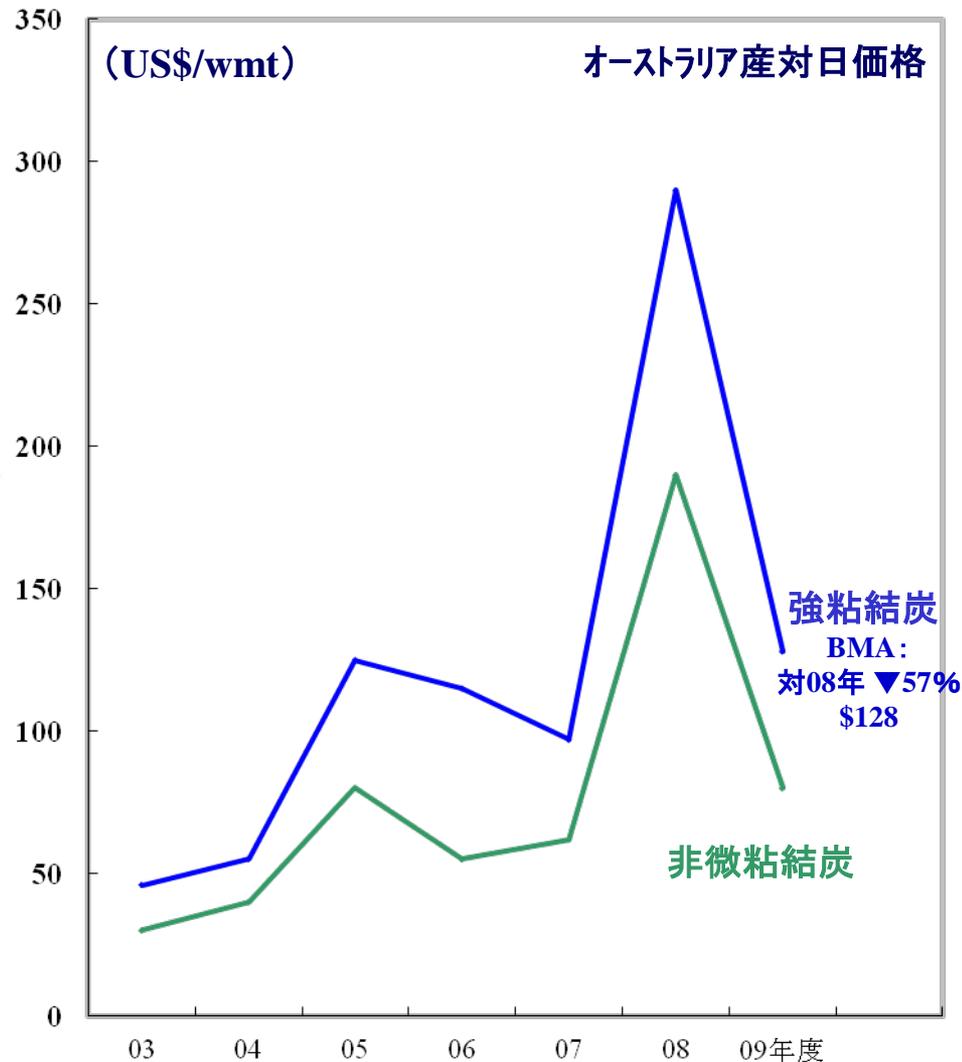
(出所: MSCI)

鉄鉱石・原料炭の国際価格推移

鉄鉱石（年度契約）

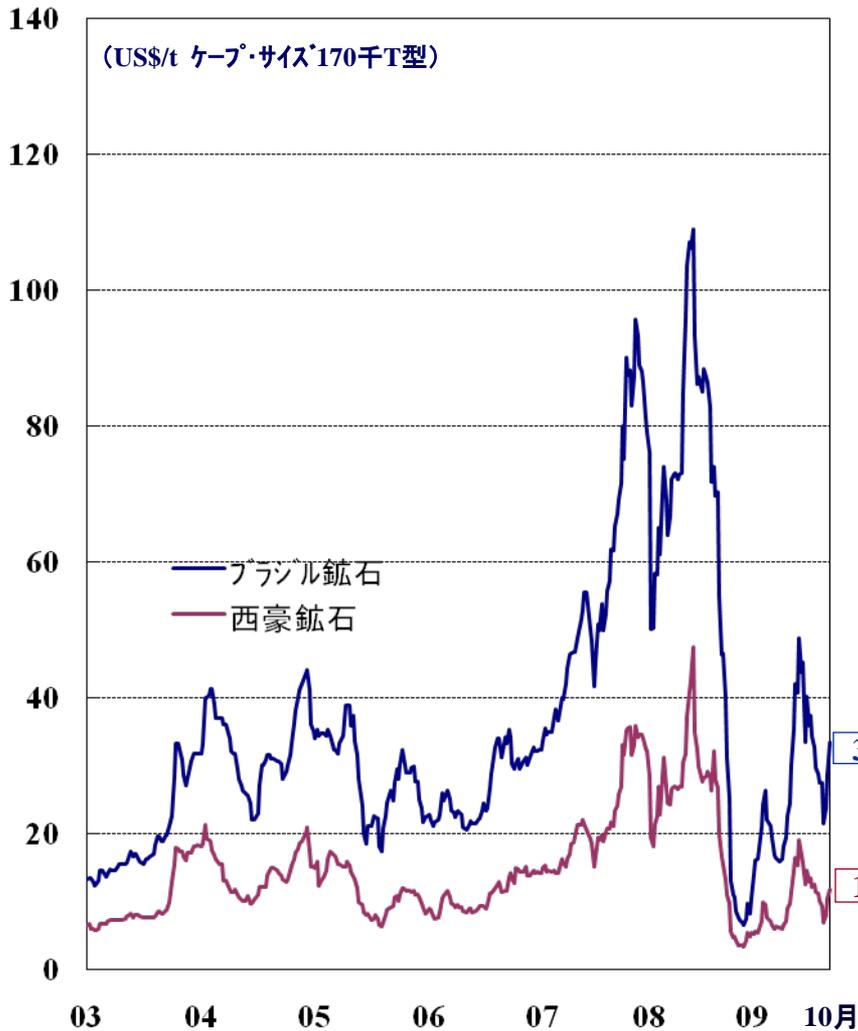


原料炭（年度契約）



原料市況 <フレート・原油>

フレート

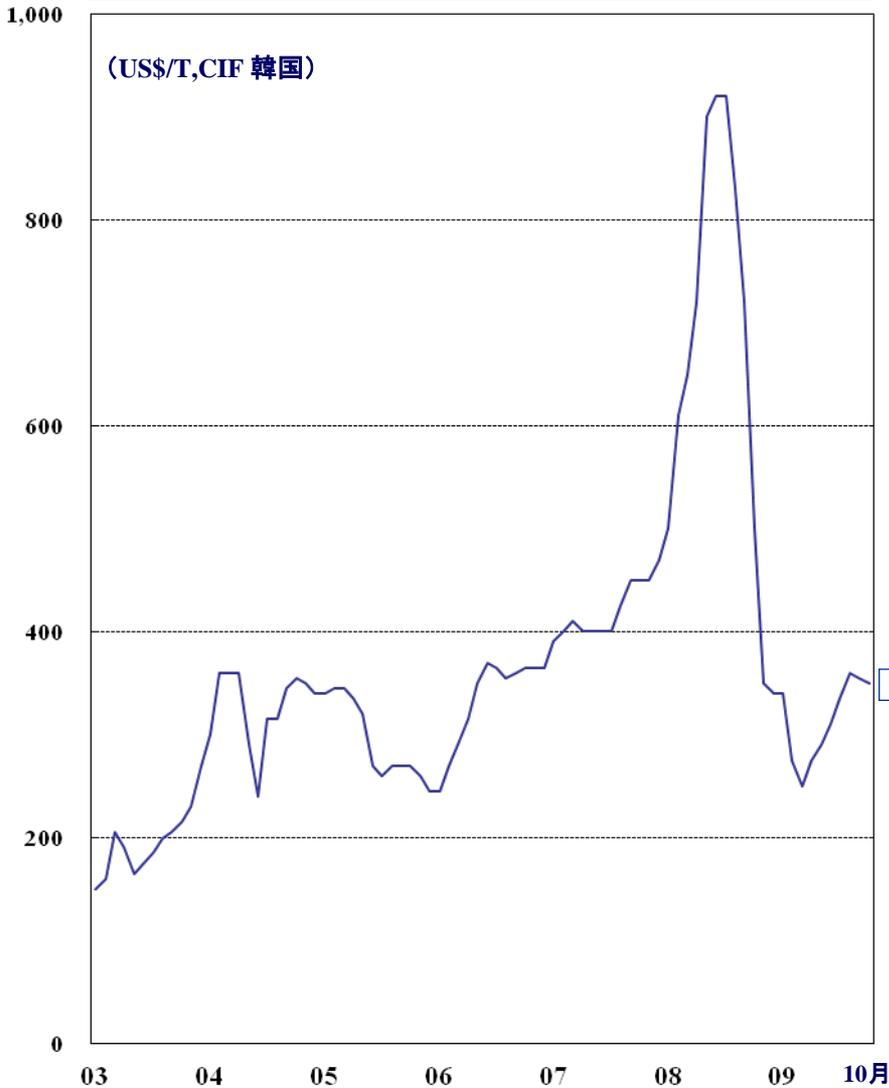


原油

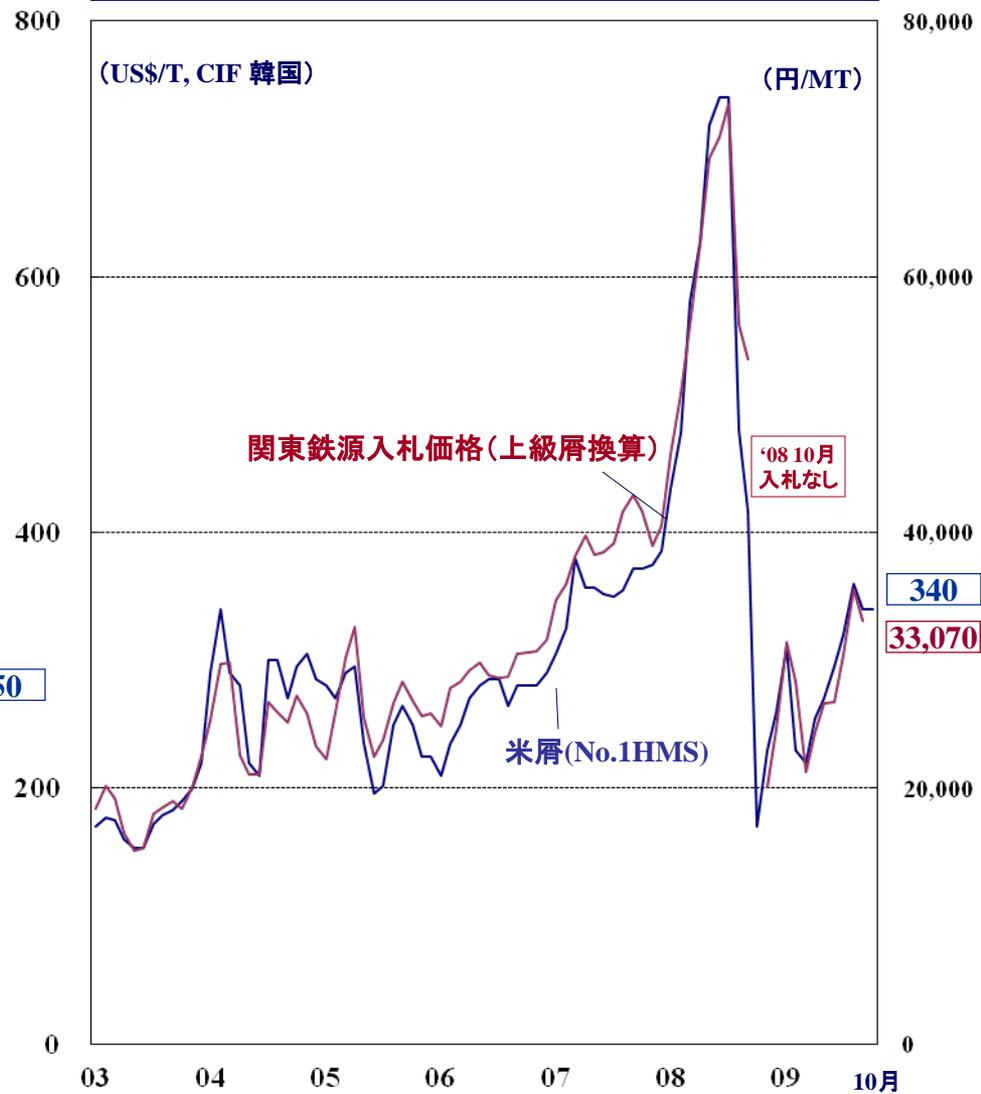


原料市況 <型鉄・スクラップ>

型鉄

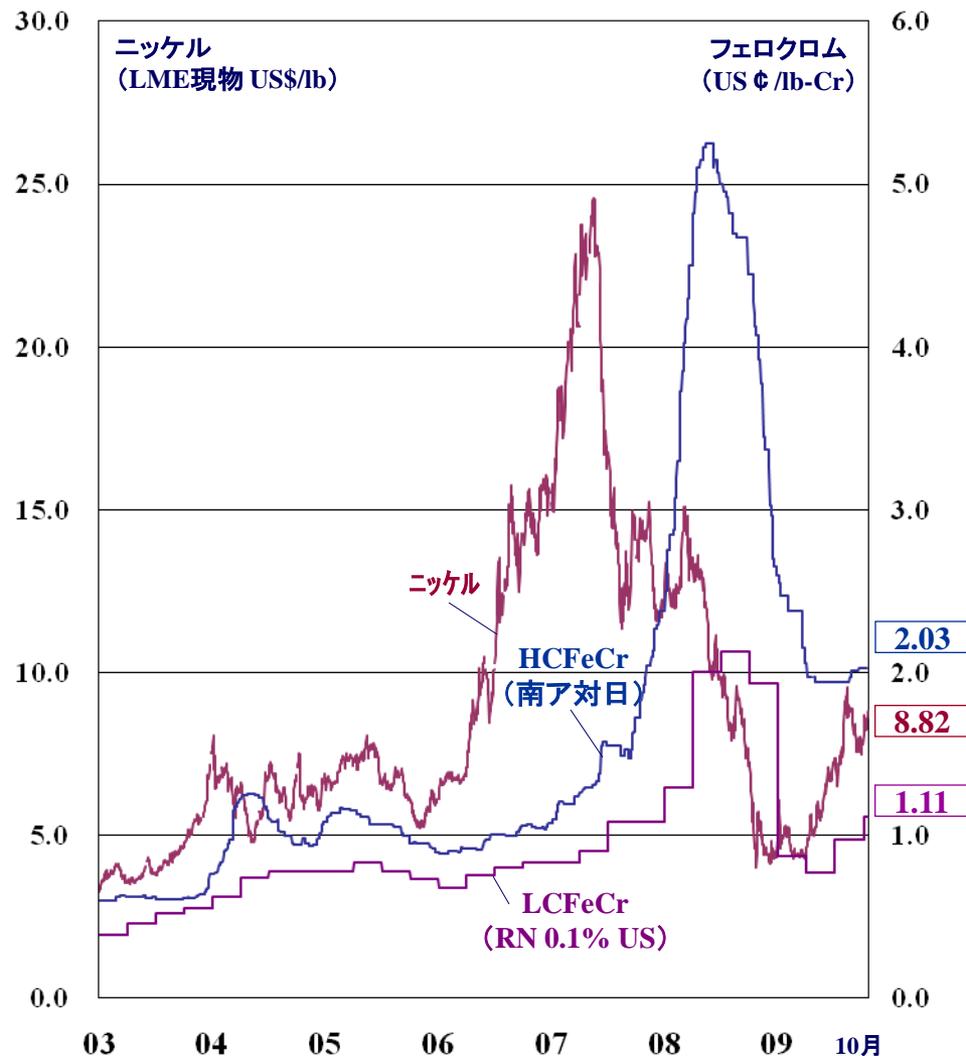


スクラップ

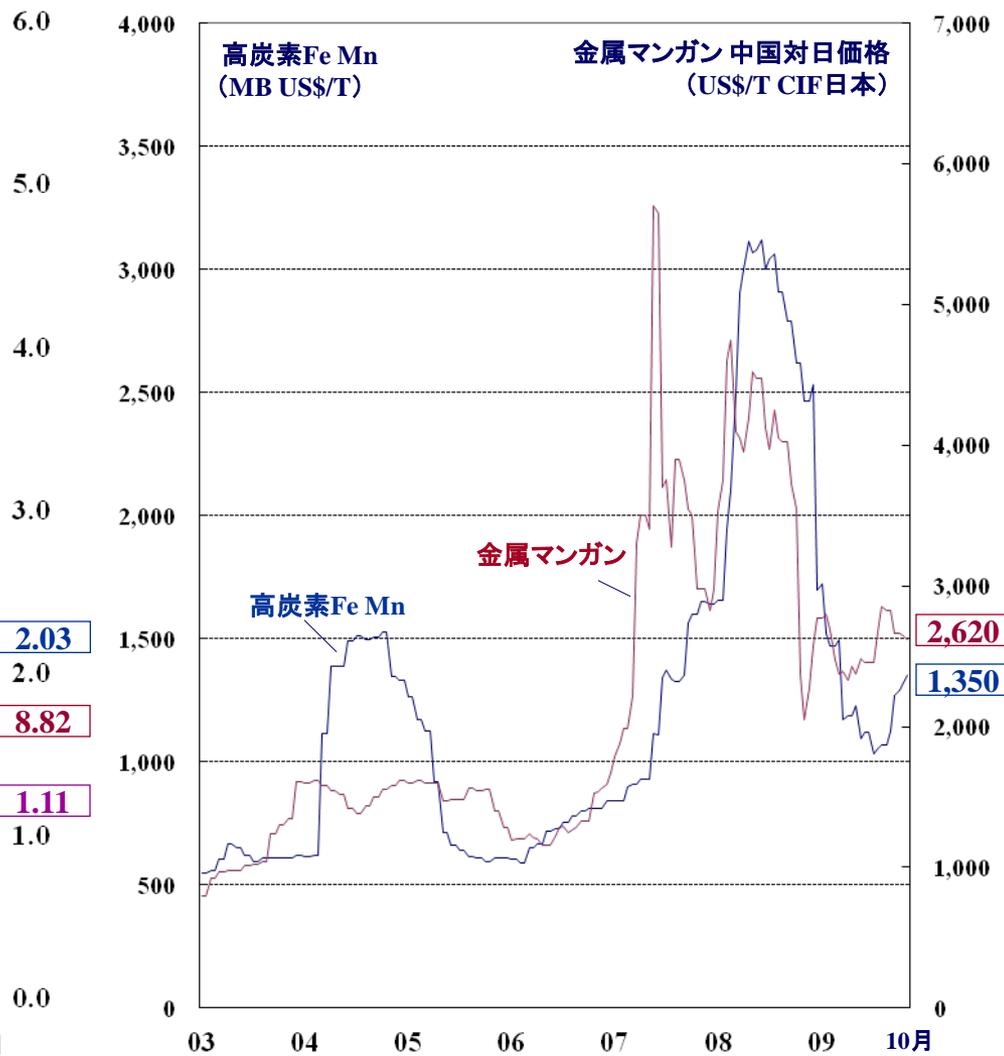


原料市況 <ニッケル・クロム・マンガン>

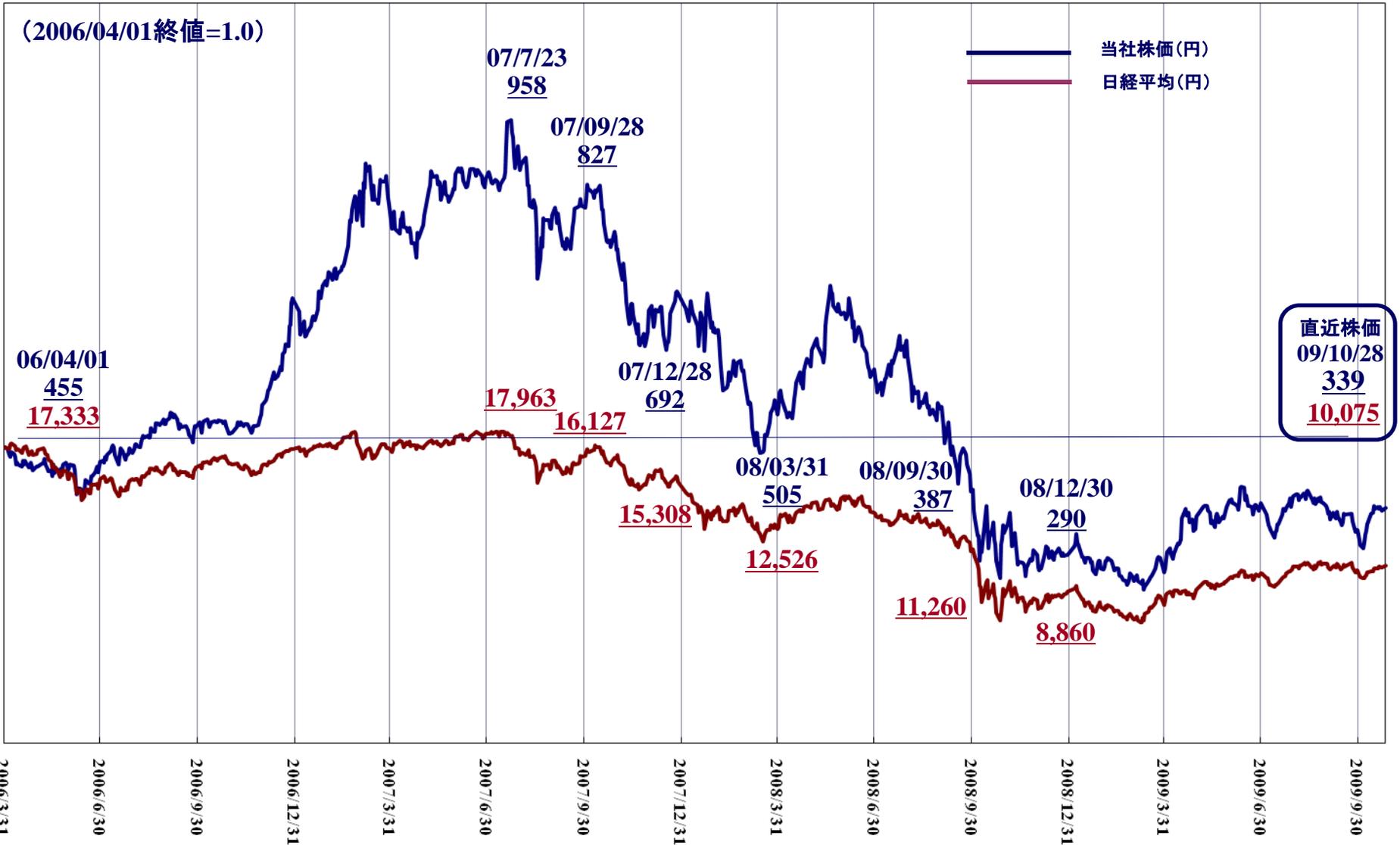
ニッケル・クロム



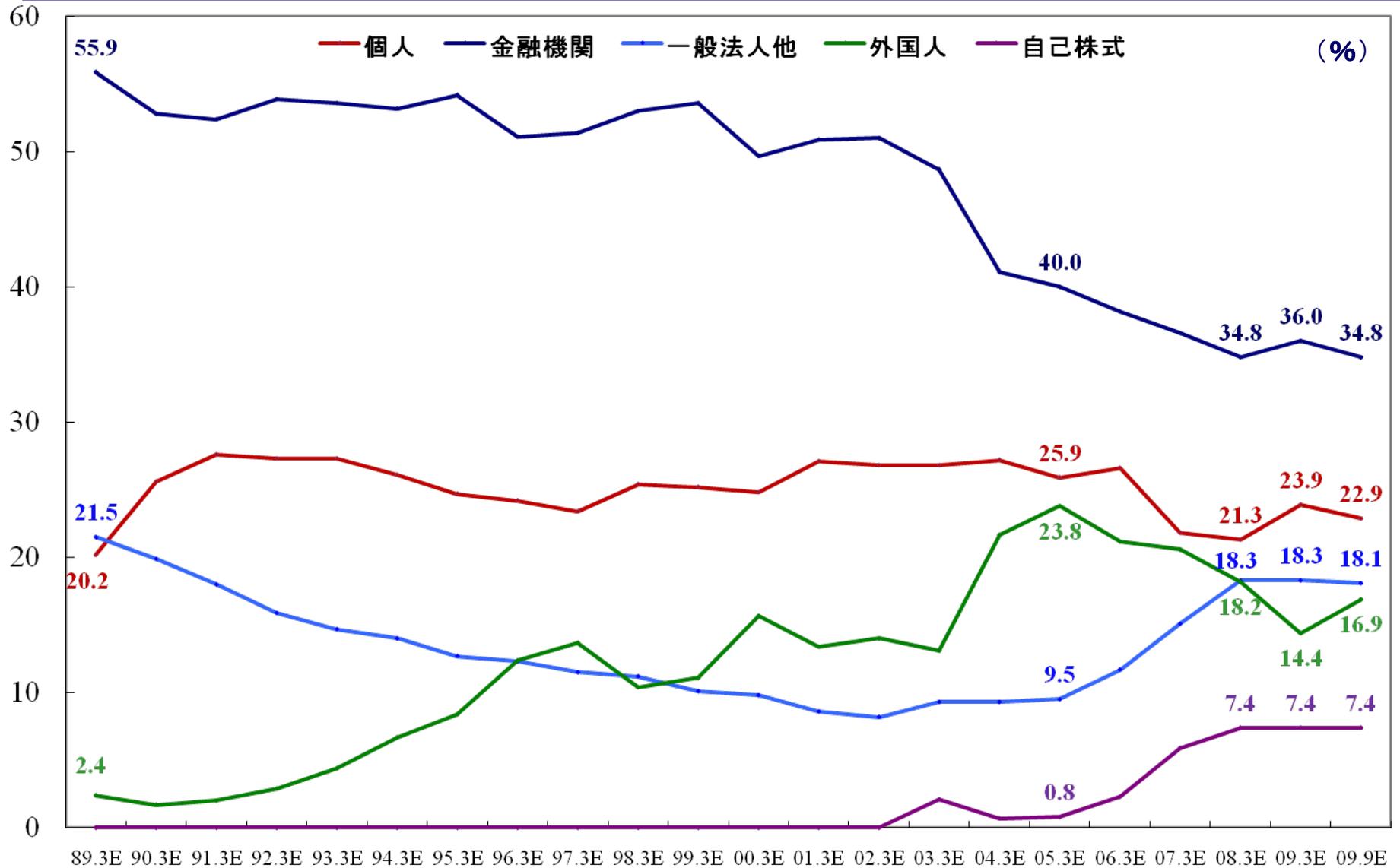
マンガン



直近3カ年の当社と日経平均株価推移



当社の株主構成



終了

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。